

文化財ニュース

第 3 号

発行 加古川市 教育委員会
 編集 加古川市文化財審議委員会
 加古川市加古川町寺家町39
 TEL ②0242 ②3477

東神吉町・西神吉町の巻

加古川市東神吉遺跡

第2次調査中間報告

加古川の下流に近い西岸の自然堤防上に立地している加古川市東神吉遺跡は、建設省による加古川バイパス建設中に一郷土史家によって偶然発見された。

その結果、本年1月5日より2月8日までの第1次調査に引き続き5月3日から第2次調査を開始し、現在に至っている。

第1次調査概要

延400mの地域を4カ所にトレンチを設定し調査を推進した。3カ所に次のような遺構を確認し、今回はそれらに基づいて調査を行った。

○溝

巾1m、深さ50cm前後のV字溝(弥生前期)、U字溝(弥生後期)共に長さ約20mで、道路を直角に横切っている2本の溝を検出し、また、巾1.5m、深さ50cm前後の溝(弥生前期)が道路に並行して走っているのが断面観察により確認された。但し、3本の溝とも両末端を確認できなかった。

○土坑

北九州で多く発見されている。いわゆる袋状ピット(断面をみると、上径よりも下径が広がっている)を計7カ所にわたってみられたが、

調査終了間際であったため調査出来なかった。

以上のような結果であったので、溝と土坑との関係、土坑の使用目的、集落との関係を究明しようとして、今回調査を始めた。

第2次調査概要

道路敷内において150m×30mの発掘区画を設定、4m方眼のマス目を設定し調査を行っており現在その2/3近くまで調査を進めている。

○溝

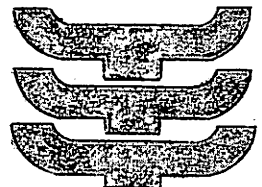
現在、5本の溝を検出している。そのうち4本は、巾50~60cm、深さ30cm、長さ20~25m前後で、互いに切り合いが見られ、前期の溝が3本、古墳時代以降と思われる溝が1本であるが、同時に使用された時期は1本のみと思われる。他の1本は現在検出中で、巾90~100cm、深さ40~50cm前後、長さ80m以上で前回の調査の際に断面観察により見られた溝に続くものと思われる。調査地域の南端で落ち込みが検出されている。この落ち込みは人工的ではなく自然的落ち込みと思われ、湿地に連なる部分でないかと思われる。この落ち込みの断面の土

文化財を護りましょう

文化財愛護シンボルマークが

制定されました。

皆さんと共に、
文化財を大事に
しましょう。



層を見ると、前期の土器を包含する層が完全に2層に分けられるので、前期後半といわれている土器を細分できる可能性があるようだ。

○土坑

8個発見されており、すでに4個を検出した。土坑5と呼んでいる土坑は、口径1.7m、底径1.8m、深さ65cmの袋状ピットと呼ばれ、約10cmの厚さの炭層が底の部分に堆積していた。出土遺物は、土器が約5個体分、磨製石庖丁、骨片等である。他の3個は径約1.2~1.4m、深さ15~20cm前後のものである。土坑5と同じく底面に炭層がみられた。これら4個の土坑は全て前期後半の土器を包含していた。普通こういった土坑は貯蔵用穴と考えられており、事実、他の遺跡では食物を包含している穴がみられるが、これら4個にはそういったものはみられない。ただ、目下検出中の他の4個は上記の土坑とかなり違っているので変わった結果が生ずるかも知れない。

○遺物

唐古第1様式新といわれる土器が大半を占めている。中には播磨地方の特色を示すと思われるものも出土している。例えば、甕形土器において沈線の間には円形浮文を施したものなどがある。

石器類としては、磨製石庖丁2、打製石庖丁1、石錘1、石鏃数本、石錐3、石斧1、木器は落ち込み内から鋸の未製品が3本出土している。

なお調査は7月末まで行なわれる。

(調査員 松下 勝 記)

東神吉町の文化財

★埋蔵文化財

(古墳・遺跡)★

東神吉町西井ノ口地区で、加古川バイパス建

設用地内より埋蔵文化財包蔵地が発見され、現在発掘調査が進められております。この調査の結果はいずれまとめられますが、現在調査されている地点より北方一円にわたって住居跡等の遺跡が存在することがほぼ確認されています。すでに砂部地区の墓地の西方の田の中から、多数の遺物が発見され、弥生時代の土器であることが確認されています。

このことから加古川バイパスの北、北条街道より東、県道船頭~神吉線より西一帯には、弥生時代以降の遺跡があると思われます。

いずれその範囲を調査して遺跡を確認したいと思っておりますので、その節には文化財保護の立場から是非ご協力下さるようお願いいたします。

また古墳では神吉山に1号墳から5号墳までが確認され、それ以外にもまだ確認されていないものがあるようです。升田山にはダム建設に伴う発掘調査で石室の構造、規模等播磨地方に類例のない貴重な資料となる升田1号墳(ダムのすぐ下にあり、ダム建設によって破壊されようとしたが、その重要度とダム様式の変更に伴って保存されるようになった。)から、10号墳まで確認されています。

西神吉町の文化財

★埋蔵文化財

(古墳・廃寺跡)★

西神吉町では縄文土器が発見された岸遺跡をはじめ、中西廃寺でよく知られた、中西遺跡が確認されています。このことから西神吉町には古くから私たちの祖先が住みついていたことがわかります。

うしろには冷たい西風をさえぎる高御位山がそびえ、前には広々とした印南野がひろがるこの土地は、農耕文化を身につけた弥生以降の人々にとって、誠に住みよい生活の場であったこ

と思われる。

また古墳では、辻古墳をはじめ、宮山の山頂に宮山1～2号墳があります。

この外西神吉地区では岸遺跡、中西遺跡等から考えて、まだ発見されていない埋れた遺跡が多数あるものと思われるので、遺物等が発見された場合には、すぐに加古川市教育委員会社会教育課文化係(TEL②0242か②3477)までご連絡下さるようお願いいたします。

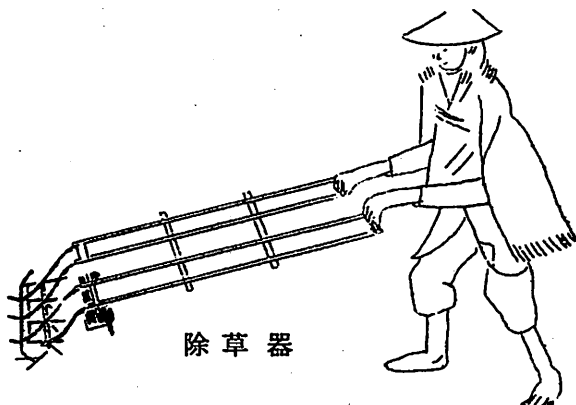
★ 民俗資料蒐集保存

についてのお願い ★

時代の移り変りと共に生活様式もかわってきて、毎日の生活に使用する日常生活用具、農具類等昔から使われていたこれらの文化財的な民俗資料が、廃棄されたり焼却されたりして、だんだん数少なくなっていることは、誠に淋しいことです。

加古川市では今のところ博物館等の施設がありませんが、近い将来にはこうした民俗資料などを保存したり、展示をする施設の建設も計画しており、その時になってこれらの貴重な民俗資料が無くなってしまっていては意義がありません。

そのため加古川市教育委員会ならびに文化財



除草器

審議委員会では、この際皆様方のご家庭で、昔から使われていた道具類(例えば、綿くり機、農業用のクワ、スキ等その他日常の生活用具)で、もうご使用にならないものがありましたら



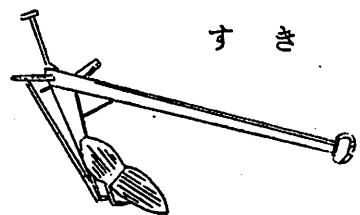
くわ

ご寄贈いただきたく存じますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、保存場所等の関係もあり、早急にこちらへ引き取ることができないものもあると思いますので、皆様のお家のどこかにしばらく保管していただき、目録だけでも調整しておきたいと思ひます。

品物は後日適当な時期に、引き取る機会をつくらせていただきます。

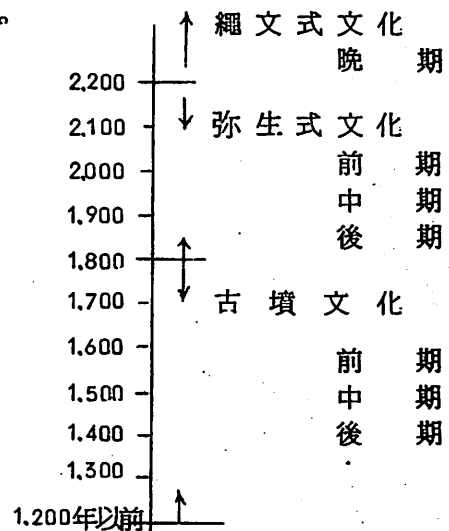
皆様の絶大なご協力を切にお願い申し上げます。



スキ

年 代 表

縄文、弥生時代の年代表を簡単にまとめてみます。



現在から約1800年～2200年以前が弥生式文化の時代と云われています。

埋蔵文化財等 分布図
東神吉町・西神吉町

